

ぬまづ憲法9条の会

178号
20年12月1日
事務局
神田健夫
921-7755

衆院憲法審査会の論議

日本維新と国民民主党

衆院憲法審査会が11月に2回行われた。7国会にわたり継続審議とされてきた国民投票（改憲手続き）改正法案を、改憲派（自民、公明、維新の会）は、急ぎ採決し、改憲論議への布石としようとしていた。

改憲派は駅への投票所設置など微修正案。これに対し立憲派は、資金力のある政党・団体がテレビ・コマーシャルを自由にたれ流せるCMの規制や最低投票率の規定がないなど重大な欠陥・問題点の論議を求めた。

法案の初の実質審議となったが、改憲派は同法案の国会成立を断念した。

憲をアピールする姿が鮮明だ。

また、国民民主党は、立憲野党と一線を画し、新たに「改憲議論への参加」方針を打ち出している。前原誠司代表代行が日本維新の会との連携・協調に動いていることも注目していきたい。

森友139回桜前夜33回

安倍政権は、森友問題で事実と異なる「虚偽答弁」139回、桜前夜祭で「虚偽答弁」33回と、11月24日に衆院調査局が報告した。

検察庁によれば、安倍首相の虚偽答弁も明らかに。

愉しく活気あふれる15周年の集いに

コロナ禍の中、11月15日午後、市立図書館視聴覚室でぬまづ憲法9条の会15周年の集いを行いました。

感染防止のため定員20

0名が100名に入場規制されましたが、講師の熱演で愉しく活気あふれる集いとなりました。

第1部のコンサート

チェロ奏者・十代田光子さんの奏でる、バッハ無伴奏組曲から浜千鳥までを楽しみ、楽器や曲目にかかわる話に聞き入りました。

第2部の講演

「バッハの無伴奏組曲はバッハの奥さんが作ったとはびっくりした。チェロの音色が人の声のように語りかけてきて耳に心地良かったです」どの声か。

望月衣塑子さん（東京新聞記者）が「コロナ禍の日本 民主主義とメディア」をテーマにパワーポイントを使い、予定時間をオーバーする、熱気あふれるお話でした。アンケート結果でも大好評でした。

「記者の裏話を関西風のノリで漫談風に語ってくれますます引き込まれました。権力に嫌われても、変わらぬしぶとく食い下がって下さい。応援します」 「新聞

記者の取材力の確かさと早口ながらも大変分かりやすい資料と語りで、これまでもやもやしていたものが何度霧が晴れたかのように感じました」との声が。

憲法を変えさせない

集会・スタンディング

- 12月19日・土曜 集会13時30分
- スタンディング14時
- 沼津中央公園

土曜スタンディング

- 12月5日・12日
- 13時30～14時15
- 沼津駅南口

上記いずれも雨天中止。
問合せ☎090-7024-18725 山崎 主催 戦争させない憲法 壊すな沼津の会



学術会議任命拒否

学術会議の会員候補として推薦された6人の研究者の任命をなぜ拒否したか。

菅首相は答えようとせず、「人事のことなので答えを控える」と誤魔化す。そのうち、「会員の出身の大学の偏り」「若い人が少ない」とか苦し紛れの理由を言い出す。だが、その破綻も明らかだ。

学術会議10億 領収書なし 機密費11億

菅首相は「学術会議は年間10億円も使っている」と言う。だが、菅首相は官房長官時代7年間に、領収書不要の機密費を総額78億円、年平均11億1400万円も使っている。学術会議では、年度後半には予算がなくなり、会員が手弁当で対応することもあるといふのに。

ねらい 軍事研究容認に

防衛省は、大学や民間企業に資金提供し、軍事研究に誘い込むため、装備（兵器）の開発につながる委託研究費を15年度3億円から17年度110億円に激増させた。

こうした中、学術会議は白熱した議論を重ね、17年3月に「軍事的安全保障研究に関する声明」をまとめた。

その後、大学からの応募は、15年度58件から年々減り20年度9件となった。日本学術会議を軍事研究容認に転換させる、ねらいは、ここにある。

大手を振るう 警察官僚

安倍・菅内閣では警察官僚出身者が大手を振るう。学術会議任命拒否に杉田和博・官房副長官が大きく関与したと報じられている。

杉田和博氏

杉田官房副長官は、警察庁で警備公安畑を中心に歩み内閣情報官を経て、第2次安倍内閣、続いて菅内閣でも官房副長官、内閣人事局長兼務である。事務方トップに君臨して久しい。

もう一人、北村滋氏

同じく警察庁で警備公安畑を中心に歩み内閣情報官となる。官邸のアイヒマンとも呼ばれるが、安倍首相の“寵愛”を受け、抜擢されて安全保障局長となる。北村滋氏は、「外事警察史素描」（2015年）で、戦前・戦中を「大東亜戦争」と称し、特高警察と外事警察が一体となって（血の弾圧と戦争推進の）体制をとったことを詳述している。

さらに、中村格氏

今年1月には、中村格警察庁官房長が警察庁次長に昇進した。次期長官か。

ジャーナリスト伊藤詩織さんへの準強姦容疑の元TBS記者・山口敬之への逮捕状を握りつぶしたのが中村格警視庁刑事部長（当時）だ。

中村氏は菅官房長官の秘書官を長く勤めていた。

これらの人物を重用する、2020年の日本政治。戦慄を覚える。

安倍前首相の証人喚問を

検察庁が桜を見る会前夜祭について安倍晋三前首相の公設秘書を任意聴取していた。しかも、5年間でも最低800万円を安倍事務所から補填していたことも明らかになったという。

安倍首相の、桜を見る会前夜祭の国会答弁は、虚偽の嘘だったことが明らかになった。

自民党の石破氏、野田聖子氏は安倍前首相に自ら説明するように求めている。安倍前首相と昵懇の橋下徹氏は議員辞職をと発言して

いる。国会で安倍前首相の証人喚問は真相解明に不可欠だ。憤怒を声に。

海自の中東派兵許さず

政府は、海自の護衛艦とP3C機の中東海域派遣1年延長をたくらんでいる。中東派兵の拠点となるアフリカ東部・ジブチ基地は、陸海空560人規模に膨れ上がっている。最近ジブチ大使に自衛官出身者を任命した。自衛隊唯一の海外基地であるジブチ基地を維持することが自己目的化しつつある。

もともと自衛隊が海外基地をもつこと自体、憲法に照らしておかしいことで、許されない。



9条の会ニュース等は郵送、配達しておりますが、財政上、高齢化で厳しい状況です。

左記宛てにメール・アドレスを送信願います。神田健夫 kanda-t@a.tnc.ne.jp メールで送信します。